

御無沙汰いたしました。

御元氣にてお過しの御様子ご何よりと存じます。

過日は、詩集「独白」をお送り下さいませ。ありがとうございますございました。雑事に追われてい

て、御礼申し上げるのがこんな夜に遅くまつ

てしまい、申訳ございません。

詩。毎読いたしました。

こういふ言い方をしているかどうか分かりませんが、~~この~~どの詩集は、井上さんのどの

詩集にもまして、いちばんよいのでは無いでしょうか。そういう感じさうけました。

して読しやけてくれます。オ一^にその点大に私は著きつけられます。よい詩集をさ出されたことさ、お祝い申しあげます。

伊藤信吉

杉並区荻窪一の162

伊藤信吉

伊藤信吉

にちりました。おそくておかしいでしょうが、私見状かけるところです。

り下さいました室生さんの手紙。御厚意ありがとうございます。新潮社の方でさつそく写してもらいます。さえます。しばらくお待ち下さいませよう。

みくうにちりました。夏におたずねしたことをせんす。おえ下さいますよ。

伊藤信吉

ようやく春めてまいりました。お變りなくお過しのことと存じます。

「人生の対局」。有難うございました。本当に人生というものは不思議で奥深いこと、私はその奥に

お手紙。ありがとうございます。いろいろとごまかしてころまでお書き頂いて申訳ありません。助かりました。ようやく大ツメというところ。日本現代名詩集は所持してありますが、あの中の一編は雑誌などに発表し、初出のもので、私共には一発見でした。それこそ岩波文庫版「萩原朔太郎詩集」はじめに収録しました。いづれ抜き刷りお送りいたします。

毎詩

十月五日

御禮造。草々

伊藤信吉